



光 和

11月号
練馬区立光和小学校
令和2年10月30日

光和小
携帯サイト



「だれかやる」と「だれがやる」

校長 矢島 直行

先日、本年度最初の土曜日授業公開（道徳授業地区公開講座）が行われました。子供たちの学校での様子をご覧いただけたのではないのでしょうか。大勢の方にご参観をいただきありがとうございました。本年度の学校公開は、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、10月24日（土）、11月14日（土）、28日（土）、12月12日（土）に分けて各学級1回の公開とさせていただきます。ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

秋も深まり、読書やスポーツに最適な季節となりました。「読書の秋」「スポーツの秋」の他に、「芸術の秋」「食欲の秋」等の言い方があるように、私たちが活動するのに最適な季節です。

また、「実りの秋」でもあります。植物は春から夏にかけ暑い日や雨、風の強い日もありますが、秋に大きな実をつくり恵みをもたらします。子供たちも新学年となった春から夏、秋にかけて身体だけではなく心も大きく成長しました。子供たちの姿にも「実りの秋」を見ることができます。しかし、植物と異なることは、子供たちにとっては、この秋がゴールではないことです。これからも引き続き経験を積み重ね、さらに成長し続けることです。何事にも落ち着いて取り組むのに適した季節のもと、さらに充実した学校生活を送ることができるように努めてまいります。

さて、「だれかやる」と「だれがやる」の言葉を比べてみたいと思います。何が違うのでしょうか。「か」と「が」の一字の違いだけです。しかし、それぞれ意味には大きな違いがあります。

「だれかやる」には、「自分がやらなくても、だれかがやる」との思いがあります。どこか他人任せの感じがあります。一方、「だれがやる」には、「自分がやらなくては、だれがやる」の思いがあります。友達が困っているとき、「だれか声をかけるだろう」と思うか、「だれが声をかけるのか。自分が声をかけなくては」と思うか。学校が楽しく、みんなが仲よく過ごすことができるのは、どちらであるかは分かることと思います。また、授業公開の際には、PTAの方の受付等のご協力をいただきました。ここにも、「だれがやる。自分たちがやらなくては」との姿勢を見ることができます。教育活動を安全、かつ円滑に推進するためには、学校だけではなく、PTA、保護者と地域の方々のご協力が必要です。

子供たちが主体的にすすんで行動することができるようにするためには、まず、私たち大人が、「だれかやる」ではなく、「だれがやる。自分がやらなくては」との姿勢を行動で示していくことが大切です。学校と保護者、地域の方とが子供たちのために、「だれかやる」から「だれがやる」の思いで協力し合うことが、子供たちを大きく実らせていきます。

保護者と地域の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。